



公立大学法人
宮城大学
MIYAGI UNIVERSITY

日本看護系大学協議会

「東日本大震災災害看護支援金における助成金事業」報告会

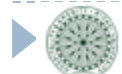
宮城大学看護学生・教職員による 南三陸町に在住する高齢者への 健康支援活動

公立大学法人宮城大学 佐々木久美子

2012年6月18日 日本教育会館一ツ橋ホール

高齢者への健康支援活動の概要

- ▶ 活動時期：2011年8月～2012年3月
- ▶ 活動場所：南三陸町
- ▶ 従事者：宮城大学看護学生と教職員
- ▶ 対象者：南三陸町に住む高齢者
- ▶ 活動目的
 - ▶ 南三陸町に住む高齢者の介護予防を、役場保健師、地区組織の人たちと協同で行う
- ▶ 活動内容
 - (1) 山間地域及び仮設住宅の家庭訪問
 - (2) 健康教育(スマイル健康塾)



南三陸町の概況



- 2005年 志津川町と歌津町が合併し南三陸町となる
- 人口(世帯数):
 - 2011年3月末現在: 17063人(5251世帯)
 - 2012年3月末現在 15352人(4877世帯)

高齢者への健康支援活動に至るまでの経緯 (1)

2011.4.12

学生・教職員によるボランティア活動の開始
家屋の瓦礫撤去、泥出しを行う。(延べ582名)



学生たちから学部の特性を生かした活動の
必要性について話しが出された



学生たちによるボランティア組織の立ち上げ
「みやぎ絆むすび隊」



高齢者への健康支援活動に至るまでの経緯 (2)

- ▶ 山間地域の契約会会長から家庭訪問の要請
 - ・デイサービスが中断され高齢者は家の中にいる
 - ・1日中退屈して、誰かと話したいと思っている
- ▶ 活動を実施するための準備
 - 1) 現地の準備
 - ・宿泊施設の確保・活動地区の集会所を提供
 - ・行政区長、民生委員に活動の趣旨説明、協力依頼
 - 2) 大学側の準備
 - ・学生募集、教職員の日程調整
 - ・オリエンテーション

健康支援活動開始(高齢者への家庭訪問)

(8月～9月4クール<1クール・3泊4日>)

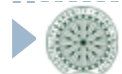


高齢者への健康支援活動の実際

－8月～11月までの活動からみえてきたこと－

- ▶ 山間地域の高齢者が置かれている現状
 - ・震災後、デイサービスをはじめとするサービスが中止となっている
 - ・外に出る機会が少なく、家の中に閉じこもっている高齢者が多くなっている
 - ・誰かと話したいと思う高齢者が多い
- ▶ 役場保健師（地域包括支援センター）に相談
 - ・津波の被害に遭わない地域の人たちを心配しつつも手が回らない現状に会った

保健師と大学が協同で支援活動を行うこととした



高齢者への健康支援活動の実際

－冬期間の活動計画－

- ▶ 大学(学生・教職員)と関係者との話し合い
 - ・参加者: 役場(地域包括支援センター)保健師、
山間地域の行政区長・民生委員
宮城大学学生ボランティア代表・教員
 - ・内容: ①8月から11月までの活動のまとめ
②活動からみえてきた課題の共有
③今後の活動方針及び計画

活動方針: 南三陸町に在住する高齢者の生活不活
発病予防を図る。

活動計画: 1)健康観察を兼ね傾聴活動を行う
2)住民の交流を兼ね介護予防教室を行う



高齢者への健康支援活動の実際

1) 健康観察を兼ねた傾聴活動(1)

- ▶ 活動日時: 2012年1月13日(金) 10時-16時
- ▶ 活動場所: 歌津地区A・Bの仮設住宅団地
 - 仮設住宅団地の行政連絡員からの要望により、活動場所を決定。
- ▶ 訪問対象者の選定
 - 対象者は行政区長の協力により決定。
 - 訪問対象者は8世帯(12名)の高齢者

高齢者への健康支援活動の実際

健康観察を兼ねた傾聴活動(2)

▶ 活動人数： 13名

〔 宮城大学 学生6名 教職員2名
兵庫県立大学 学生2名・教員3名 〕

▶ 活動方法：

- ・保健師に訪問対象者を連絡し事前に情報提供を受け、終了後、訪問時の状況等を保健師に報告。
- ・学生と教員が1組となり、健康観察を行いながら対象者の被災後の生活等について話を聴く。

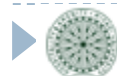


高齢者への健康支援活動の実際

健康観察を兼ねた傾聴活動(3)

▶ 訪問時の住民の様子

- ・学生と話すことに、「何を話せばいいんだか・・・」と難色を示す人もいたが、話が弾むにつれて、避難所生活のこと、仮設住宅に入居してから現在までの日々の出来事、昔のまちの様子等々たくさん話していた。
- ・新しくコミュニティを形成していくことに対する不安や戸惑いについても話していた。
- ・隣近所は知っている人であり、お互いに協力しながら生活をしている様子であった。
- ・震災後、体調を崩して受診している人もいた。



高齢者への健康支援活動の実際

2) 住民の交流を兼ね介護予防教室(1)

- ▶ 活動日時: 2012年2月26日(日)8時30分～21時
2012年2月27日(月)8時～16時

- ▶ 活動場所: ホテル観洋

- ▶ 活動人数: 26名

宮城大学学生11名・教職員6名

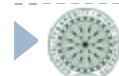
兵庫県立大学学生4名

南三陸町保健師5名

- ▶ 参加人数: 高齢者92名

仮設住宅に住んでいる人

山間地域に住んでいる人



高齢者への健康支援活動の実際

2) 住民の交流を兼ね介護予防教室(2)

▶ 介護予防教室「スマイル健康塾」 10時～15時30分

<実施内容>

(1) みんなで楽しく運動しよう・・・運動指導士

(2) グループ対抗ゲーム・・・学生

① 旗揚げゲーム

② 後出しじゃんけん

③ ○×ゲーム

結果発表

(3) 皆で歌おう 「上を見て歩こう」

昼食・お風呂タイム



高齢者への健康支援活動の実際

2) 住民の交流を兼ね介護予防教室(3)

宮城大学と兵庫
県立大学合同で
行いました



高齢者への健康支援活動の実際

2) 住民の交流を兼ね介護予防教室(4)

2月26日(土)

<準備>

- ① 役割の打ち合わせ
- ② ゲームで使用する旗等の作成
- ③ 当日のリハーサル
グループ対抗ゲーム
合唱のリハーサル



活動に参加した学生教職員です



高齢者への健康支援活動の実際

2) 住民の交流を兼ね介護予防教室(5)

ジャケットは「看護系大学災害活動支援費で購入させていただきましたありがとうございます！



「福興市」は、南三陸町の名産品をはじめ、全国各地の数多くの名産品が店頭に並んでおり、多くの人たちで賑わっていました。

高齢者への健康支援活動の実際

2) 住民の交流を兼ね介護予防教室(6)



第1部 みんなで楽しく運動しよう

頭も体も使って、
笑いの絶えない
ひと時でした。



高齢者への健康支援活動の実際

2) 住民の交流を兼ね介護予防教室(7)



第2部 グループ対抗ゲーム



学生が用意したゲームに皆さん積極的に取り組んでくださいました。
ありがとうございます

手作りの賞状と参加賞です



高齢者への健康支援活動の実際

2) 住民の交流を兼ね介護予防教室(8)

<参加者からの感想>

- ▶ こんなに笑ったのは1年ぶりです。
- ▶ 家に一人でいても笑うこともないし、今日は楽しかった。
- ▶ 体を動かしてすっきりしました。
- ▶ 家の中にいるほうが多いけど、今日は楽しかったです。
- ▶ いろいろな地域の人と話す機会になりました。
- ▶ また、こんな会があったら来ますね。
- ▶ 温泉に入れてよかった。

活動を通しての学生の学び（1）



- ▶ 活動後、必ず、兵庫県立大学と宮城大学の学生による、ミーティングを開催。
ここでは、活動した後の学生の思いを出し合う場とした。
- ▶ 大学に戻ってから、各自、報告書を記入し大学に提出。
- ▶ リーダーは毎回の活動のまとめを行った。

活動を通しての学生の学び（２）

- ▶ 学生としてできることは限られている。だからこそ、できることを一つ一つ丁寧に行うことが大切。
- ▶ 住民のために何もできないが、住民の気持ちに寄り添うことが大切。
- ▶ 少しでも笑顔が増えるような活動にしたい。
- ▶ 被災地の現状を知ることにより住民理解が深まった。そのことが、地域の高齢者との交流の深まりにつながった。

活動を通しての学生の変化

- ▶ 何事にも積極的に取り組む姿勢がみられる。
- ▶ 仲間を思いやる、一緒に取り組もうとする姿勢がみられる。
- ▶ 対象者を思いやり、相手の立場に立ち話を聴こうとする姿勢がみられる。
- ▶ 対象者を受容し、共感することの大切さが理解できている。
- ▶ 学習不足を実感し、学ぶことの必要性を認識している。

健康支援活動のまとめ（1）

- ▶ 役場の保健師が入ることにより、活動の内容が現地の健康課題に対応したものとなった。
- ▶ 特定地域から南三陸町全体の支援となった。
- ▶ 学生と一緒に活動評価を行い、区長、保健師に報告することにより、活動への信頼を得ることができた。
- ▶ 学生たちは、少しでも住民の笑顔につなげるために継続支援が必要と考えている。
- ▶ 長期的な高齢者支援のために、現地の行政、地区組織、大学の三者が一体となり、活動を展開するためのシステムの構築が必要。